

映画で観る「朝鮮通信使」

◎「朝鮮通信使」世界記憶遺産へ登録申請

日本と韓国が合同で、江戸時代に朝鮮王朝が日本に送った外交使節「朝鮮通信使」の関連資料をユネスコの世界記憶遺産に申請することが正式に決まりました。資料は外交文書、絵巻など日韓合わせ1111件333点で、2017年の登録を目指しています。

世界記憶遺産への登録が決まれば、朝鮮通信使の寄港地として知られる上関も注目を浴び、観光客も増加することが期待できると見られます。

◎「朝鮮通信使」に関する映画2本

「わいわいタイムス」では、2014年8月号で「まちの宝物」として朝鮮通信使を取り上げて詳しく紹介しましたが、今回は朝鮮通信使に関する映画を2本紹介したいと思います。

一つは、1979年に公開された『江戸時代の朝鮮通信使』《企画・制作 辛基秀（シン・ギス）、監督 滝沢林三》、もう一つは2013年に公開された『李藝（りげい） 最初の朝鮮通信使』《プロデューサー 益田祐美子、監督 乾弘明》です。

◎映画『江戸時代の朝鮮通信使』

江戸時代の朝鮮通信使の歴史的意義と華やかな文化交流の史実に映画史上初めてスポットを当て、対馬から大阪を経て江戸に至るまで、当時の記録や絵巻、ゆかりの地などを織り交ぜて朝鮮通信使の往復

した足跡を辿った歴史ドキュメンタリー・フィルムです。

この映画を企画・制作された辛基秀さんは、1931年京都市生まれ、生涯にわたって朝鮮通信使を研究された方で、主な著書に『朝鮮通信使の旅日記』等があります。この作品には、辛基秀さんの「近代以前に平和な文化交流が行われていた時代があったことを楽しみながら再認識してほしい」という願いが込められています。

1980年度の毎日映画コンクール2位に入賞した作品。残念ながらDVD化はされていませんが、16ミリフィルムは、広島市映像文化ライブラリーなどで貸し出しをしているようです。

◎映画『李藝 最初の朝鮮通信使』

一般的に朝鮮通信使は江戸時代のものを目指すことが多いですが、じつは、室町時代の1375年、將軍足利義満からの使者と国書に対する返礼として、朝鮮から信（よしみ）を通（かわ）す使者として派遣されたのが始まりです。15世紀半ばからしばらく途絶えていましたが、安土桃山時代に豊臣秀吉が朝鮮に出兵するか否かを確認するため、秀吉に向けても派遣されました。しかし、秀吉の朝鮮出兵によって、日朝間が国交断絶となったために中断され、その後、江戸幕府が国交回復のために通信使の派遣を打診したことで再開されました。

《ストーリー》

この映画は、今から約600年前、朝鮮半島から命がけの航海で、43年間に40数回も来日した実在の外交官「李藝（りげい）」と、彼が礎とな



って江戸時代に花開いた「朝鮮通信使」の軌跡をたどるドキュメンタリー映画です。

地方の小役人だった李藝は、世宗（セジヨン）大王の信頼厚い外交官となり、室町幕府・足利將軍に謁見するため京都まで出向きました。しかし李藝には、8歳の頃に母を倭寇に拉致されるという悲しい過去がありました。少年の心に強く芽生えたであろう憎しみの情を、どのように友愛の情に変えて日朝の友好に人生をかけたのでしょうか。

韓国人俳優ユン・テヨンが、かすかに残された李藝の軌跡をたどり、金山（フサン）から京都までを旅します。驚くべきことに、今はさびれた瀬戸内の小さな港町には、朝鮮通信使をもてなした交流の歴史が、現在もなお大切に残されているのです。

同じ頃、駐日韓国大使館主催、朝鮮通信使の軌跡を辿るSNSリポーターの旅に参加した日本の大学生たちは、韓国で、知らなかった日韓の歴史に触れます。日本と韓国、たくさんの共通点もあれば、避けられない問題も…。新しい世代の若者たちは、どう乗り越えていくのでしょうか？

旅を通して見えてきたのは、いつの時代も変わらない、目の前の相手と心を通わせたいと願う人々の姿…。

日本人と韓国人が共に前へ進むために、

今だからこそ挑む、渾身のドキュメンタリーです。

《出演者の紹介》

・ナビゲーター ユン・テヨンさん

韓国人俳優。2007年のMBSドラマ『太王四神記』で、ペ・ヨンジュンさんが演じる主人公タムドクと敵対するヨン・ホグ役を好演、痛みと闘いを抱いた英雄の姿を見せる役どころで、日本でも人気に火が付きました。

・ナレーター 小宮悦子さん

フリーキャスター。1985年スタートのテレビ朝日『ニュースステーション』でサブキャスターを13年間務め、久米宏さんとのコンビで視聴者の支持を集めました。

《李藝について》

朝鮮王朝前期の官人で外交官。もと蔚山（ウルサン）郡の役人で、足利將軍との交渉と倭寇対策などの功績があり、世宗大王の信頼が厚く、高い官職を歴任しました。8歳の時に母が倭寇に連れ去られ、生涯を通じて捜していません。

通信使・回礼使などで京都（4回）・対馬・吉岐・九州・琉球へ使行すること40数回。朝鮮通信使のさきがけとして、注目されています。

《公式サイト》

<http://rihei.pro/>

この映画はDVDも発売されています。また、6月には上関町内でも上映会が計画されているようですので、皆さんぜひご鑑賞ください。

◎「わいわいタイムス」5月号は5月1日（日）発行予定です。

